

【資料3】

Good Luck Beijing – Qingdao International Regatta 報告

大会期間：2006年8月17日－31日

場 所：中国・青島

参加種目と参加選手：

470男子	2艇	松永・上野組、関・柳川組
470女子	2艇	田畑・栗田組、吉迫・大熊組
49er	2艇	石橋・牧野組、轟・高橋組
RSX男子	2艇	富澤、杉原
RSX女子	2艇	小菅、須長
イングリッド	1艇	重・堀内・江口組

- テストイベントは大会主催者がオリンピック本番の準備を整えるために行うレースであるため、主催者側と参加各国のチームリーダーズ会議が毎朝行われ、活発な意見交換が行われた。準備不足で問題が発生しても、主催者側の努力で日々解決していく様子は、4年前のギリシャと比較したら対応が早かった。また、ハーバーの大きさはギリシャと比べると適度に狭いため、移動距離がアテネよりも少ないのはありがたい。
- 気象条件は風が弱い日が多く、3m/s以下ではレースを行わないRSX級を筆頭に、風がある時間に素早くレースを行わなければならない、そのペースが欧米の選手にはきつかったようである。日本選手は国内のレースや国体で似た条件があるので慣れている。レース運営はエリアによって手際のよさが異なるが、日々、運営ペースが速くなった。青島で風が強いのは荒天時で、気圧の谷や前線通過で崩れる。ただし、これは秋の始まりであり、真夏のパターンでは弱い海風が中心になる。気象については、今年が異常気象パターン（データは年末を目標に解析していく）、長期予報では来年が平年のパターンと考えられているので、今年の風が本番の風と判断するのは早すぎる。また、海風のメカニズムを確認するために、現在の測定ブイデータ、気象観測所のデータ以外により細かい独自のデータを取るために、青島日本人会に協力をお願いして来春から測定機器を設置する場所（エリア指定）を探してもらうことにした。
- 成績は別表のとおり、日本は470男女がメダルレースに残り、それぞれ6位をとっている。他のクラスは部分的に良いレースもあったが、なかなかトップ10に入るレースができない。軽風域は得意なはずなので、来年までに潮のあるエリアでのスタートなどを練習、レベルアップできるように努力したい。全体ではイギリス、フランスの強さと地元中国の躍進ぶりが目立った。イギリスやフランスの強さはチームの組織的なアプローチがあり、中国は現地での練習がこなせることから、青島のコンディションを考え

た走りをしていました。特に潮に慣れている点、弱い風での練習を多くこなしていたことがメダル獲得に繋がっていた。

イギリス、フランスは現地に早くから入り、潮と気象コンディションのデータを蓄積していた。

- 日本は現地で練習を今年は設けず、オリンピックハーバーが使用できる期間に現地入りした。470世界選手権が同じ中国の日照で開催されるため、そちらでの準備を重視し、青島はテストイベントから準備のための期間と考えた。現場で気象解析をしながら、来年のテストイベントをへて、チーム全体で気象データを蓄積していくことと、来年は事前にオリンピック本番と同じ潮まわりでの調査を準備する。4エリアのうち、CとDは潮流が速いものの変化は転流のタイミングをつかめば大丈夫で、B、A、メダルレースエリアは浅瀬や岬の影響があり複雑なため、特別に調査が必要である。

- 抗議（プロテスト）は470男子（松永組）の救済要求とRSX女子（小菅）がイタリアから出された2件のみだった。
松永組のケースは救済要求が通ってレースが取り消しになったことに対して、そのレースの上位艇がレース取り消しの取り消しを要求し、結果は救済ポイントをもらうだけという満足のいくものではなかった。小菅はポート・スターボードのケースで失格（4位がDSQ）となり、メダルレースに残ることが出来なかった。種目が増えると選手がプロテストに巻き込まれた時に十分な対処をする体制ができていないため、来年はプロテスト対応ができる兼任スタッフを増やしたい。

- 物流については、今年はカルネやボンド金の問題や日照への往復など、問題ばかりでたいへんだったが、来年以降はより簡素化されていくであろう。関連業者など窓口や連絡先ができた。輸送にかかる日数を短縮したい。

- ハーバー内に持ち込めるコンテナの数が2本と限定されるため、今年は貨物に使ったコンテナをそのまま倉庫かわりに持ち込んだ（40ftを2本、20ftを1本の追加を認めてもらった）。倉庫がわりには使えたが、居場所としては暑くて休まらないので改善が必要である。ハーバー内も暑さをしのぐ場所が少ないので、チームコンテナはクーラーが入り、ロッカースペースができるもの、食料の冷蔵保管ができる生活コンテナと、作業スペースと倉庫を兼ねたコンテナの2本にしたい。
輸送に使うコンテナは別途ハーバー外のマリナーへ送り、ハーバー内は貨物の輸送とは別に考える。
イギリス、デンマークスペインがアテネで使ったものをそのまま持ち込んでいたので参考にしたい。

- 宿舎については、現地で下見をしたにもかかわらず契約違反にあい、キッチン付きの部屋が普通のホテルの部屋になっており、その後の交渉で苦勞した。また、セキュリティの警察の対応も強引なことが多く、落ち着かなかった。来年はハーバーにより近い場所で新しく建造されるコンドミニアムがあるため、事前に下見を行って確認する。青島日本人会に協力をお願いしてあるが、確実に決めるようにしたい。

また、来年はハーバー隣接の選手村が使える可能性があるが、施設全部が使えるわけではないため、事前練習と気象調査を含めて、宿泊の手配と隣接ハーバーマリーナの場所を確保する（今年のうちには申込完了）セキュリティが厳しく、来年も選手団が全員同じ宿舎に入ることを奨励されている。青島の警察は主催者にホテルを指定する様に指示しているため、宿舎の制限ができる可能性もあるという。今年の宿はインターネットのLANが使い、洗濯機も2台確保することができた。宿舎からハーバーまでは2.8 km（徒歩30分）、大会主催者準備のバスのほか、タクシー、自転車を利用したが来年は徒歩圏内を考えたい。

- 健康管理はたいへんな場所である。ほとんど外食になったため、選手は腹痛、下痢、発熱、嘔吐などで休む者も多かった。現地では日本語が通じる病院を紹介してもらっていたが、幸い、病院へいくまでひどい者はせず、持参した薬で対応ができた。また、今回はアスレチックトレーナーやマッサージは帯同しておらず、選手は個々に宿舎周辺のマッサージへ行くことになったが、RSX級は特に軽風の時にフィジカルな負担が大きいいため、来年はハーバー内にトレーナー1名が入ることを考えたい。

今年は各クラス2艇ずつ6クラス選手19名での参加となったが、来年のプレ五輪は各種目1艇ずつで、日本からは9クラス15名の予定。8月10日からのプログラムになるため、7月後半から現地に入り準備を進めて行く予定である。

オリンピック特別委員会
「マネジメント委員会」
斉藤 愛子

CNC 2006 Qingdao International Regatta(テストイベント) 成績分析

1.クラス別順位

Position	Class										
	RS:X M	RS:X W	470 M	470 W	49er	Ynglng	Laser	Laser R	Finn	Tornado	Star
1	CHN	FRA	GBR	SWE	GBR	NED	GBR	USA	GBR	FRA	USA
2	CHN	CHN	KOR	FRA	FRA	GBR	NED	NZL	GRE	FRA	GBR
3	HKG	CHN	GBR	GER	UKR	CHN	NZL	GBR	DEN	AUT	USA
4	CHN	POL	FRA	BRA	DEN	GBR	POL	USA	SWE	USA	ITA
5	POL	CHN	ISR	FRA	USA	USA	SLO	POL	SLO	GBR	AUS
6	FRA	HKG	JPN	JPN	GBR	GER	GRE	ITA	USA	AUS	AUS
7	FRA	GRE	FRA	AUT	ITA	CHN	AUT	CHN	ESP	RUS	CHN
8	GBR	HKG	USA	ISR	GRE	AUS	GBR	IRL	NZL	GER	
9	NZL	ISR	SLO	RUS	GER	RUS	AUS	CHN	GBR	ITA	
10	ITA	AUS	ESP	DEN	DEN	USA	FRA	AUS	ITA	FRA	
<日本選手>											
JPN 1	17	13	6	6	17	12	-	-	-	-	-
JPN 2	24	25	13	21	18	-	-	-	-	-	-
国別順位	12	10	5	5	13	9	-	-	-	-	-
参加国数	20	19	25	23	15	12	24	22	13	11	5
参加艇数	34	30	42	37	22	16	36	34	18	19	7

2.メダル獲得数

国	金	銀	銅	国別計	
GBR	イギリス	4	2	2	8
FRA	フランス	2	3	0	5
USA	アメリカ	2	0	1	3
CHN	中国	1	2	2	5
NED	オランダ	1	1	0	2
SWE	スウェーデン	1	0	0	1
NZL	ニュージーランド	0	1	1	2
GRE	ギリシャ	0	1	0	1
KOR	韓国	0	1	0	1
HKG	香港	0	0	1	1
GER	ドイツ	0	0	1	1
UKR	ウクライナ	0	0	1	1
DEN	デンマーク	0	0	1	1
AUT	オーストリア	0	0	1	1
合計		11	11	11	33